

## 若者の地元定着 産学官で促進へ

八戸・連携推進会議

八戸市、八戸商工会議所、市内の高等教育機関でつくる「八戸産学官連携推進会議」（会長・熊谷雄一八戸市長）は20日、市庁で会合と会見を開き、若者の地元定着や地域の活力を生み出す人材確保を目指し、さまざまな取り組みを行うとした。今後の取り組みの方向性や内容を説明した。

同会議は2020年に産学官連携による八戸未来創造中長期計画を策定していた。より実効性がある計画とするため、地域のニーズに応じた人材育成、研究成果の創出、地域の中核的な産業の振興と雇用創出など6つの指針に基づく取り組みを行うなど、計画改定の方針を示した。

八戸工業大学は、国内の労働力不足を受け、外国人が同大でインターンシップとして6カ月留学し、特定技能1号資格取得に向けて専門の教育を受ける取り組みを紹介。取得後は企業で働きながら他の資格を取ることを目指す。今年4月からはミャンマー人8人が受講、10月からは11人が受講予定という。八戸工業高等専門学校は同校が地域の防災拠点に指定されていることなどから、本年度中に市と防災拠点の構築に関する協定を結び、機能を高度化させる方針を説明した。

熊谷会長は「企業の人材ニーズなどを把握し、学生にフィードバックしながら、若者に八戸の魅力を感じてもらい定着に向けて取り組みを推進していきたい」と述べた。（大庭菜摘）

同会議はこれまで八戸学院大学が事務局だったが、本年度から市に移管した。